

若年層の妊娠不安と 緊急避妊薬に関する 実態調査報告

2025/09/26

一般社団法人ソウレッジ

レポート



目次

調査概要

P. 3

属性情報

P. 4

背景・問題意識

P. 6

調査結果詳細

P. 7

提言

P. 14

調査概要

目的

若年層の妊娠不安と緊急避妊薬に関する実態を明らかにし、今後の政策提言や社会啓発のための基礎資料とすることを目的とする。

概要

時期

調査実施期間 2025年4月25日～4月28日

サンプル数

スクリーニング調査	12,587ss
本調査	1,397ss

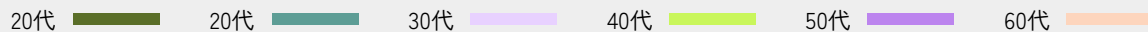
なお、本調査では倫理的配慮のため性に関する質問において「回答しない」の選択肢を設けている。

項目

性行為・避妊・
妊娠不安・
緊急避妊薬の認知／
服用／障壁 等

属性情報

年代



スクリーニング
調査 (12587)



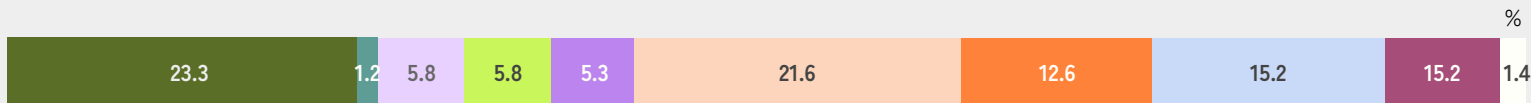
本調査 (1397)



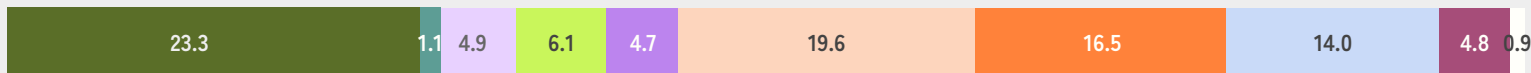
職業



スクリーニング
調査 (12587)

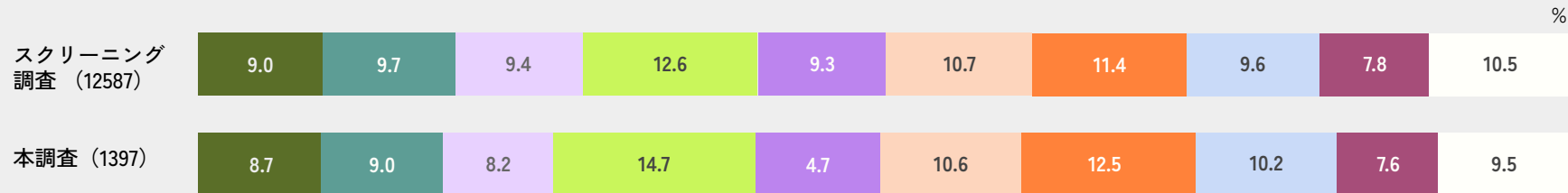
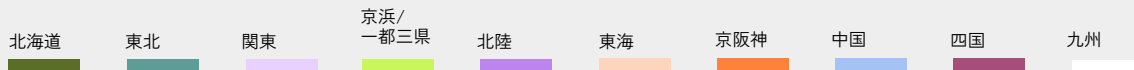


本調査 (1397)

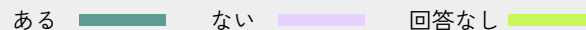


属性情報

居住エリア



性行為の経験有無



背景・ 問題意識

若年層の予期せぬ妊娠は、当事者の人生設計や心身の健康に深刻な影響を及ぼすだけでなく、社会全体にとっても重要な課題となっています。

その予防手段の一つである緊急避妊薬は、妊娠の不安を抱える人々にとって不可欠な選択肢ですが、価格の高さ、入手経路の制限、適切な情報提供の不足など、多くのハードルが依然として存在しています。

近年、日本においても緊急避妊薬のOTC化が承認されるなど、アクセス改善に向けた動きがあります。一方で、OTC化はアクセス改善のスタートで、若者が必要なタイミングで自分で入手するには、価格を含めて様々なハードルがあります。

本調査は、予期せぬ妊娠が若者にとって身近な課題であることや、緊急避妊薬のニーズや現状の課題を可視化し、より実効性のある支援策の検討につなげることを目的としています。



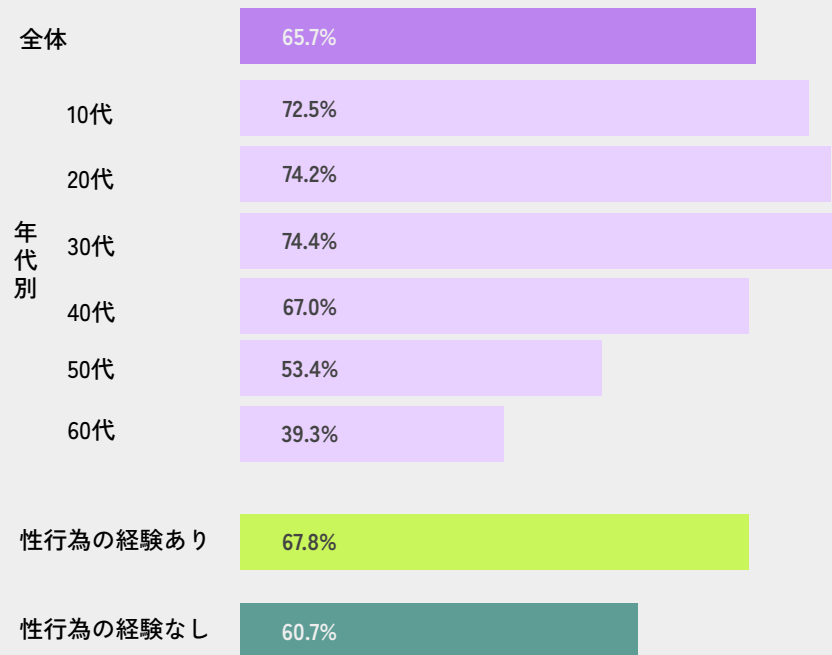
緊急避妊薬の認知・服用経験

緊急避妊薬の認知率は全体で66%。10-30代の認知率は7割を超えて高いが、50代で約50%、60代では約40%と低い。

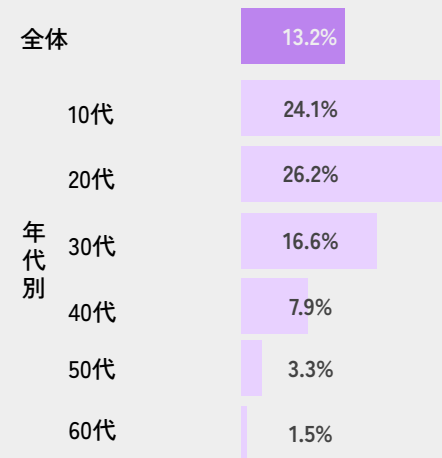
緊急避妊薬の服用経験率は全体で13%。10-20代では約25%。30代でも17%が服用経験がある。

現在の緊急避妊薬（レボノルゲストレル）は2011年に販売が開始されたため、40代以上と30代以下との間で認知度や服用経験に差があると考えられる。一定の認知度はあるが、誰しも必要になる可能性があると考え、認知率をより上げていく必要がある。

認知率



服用経験

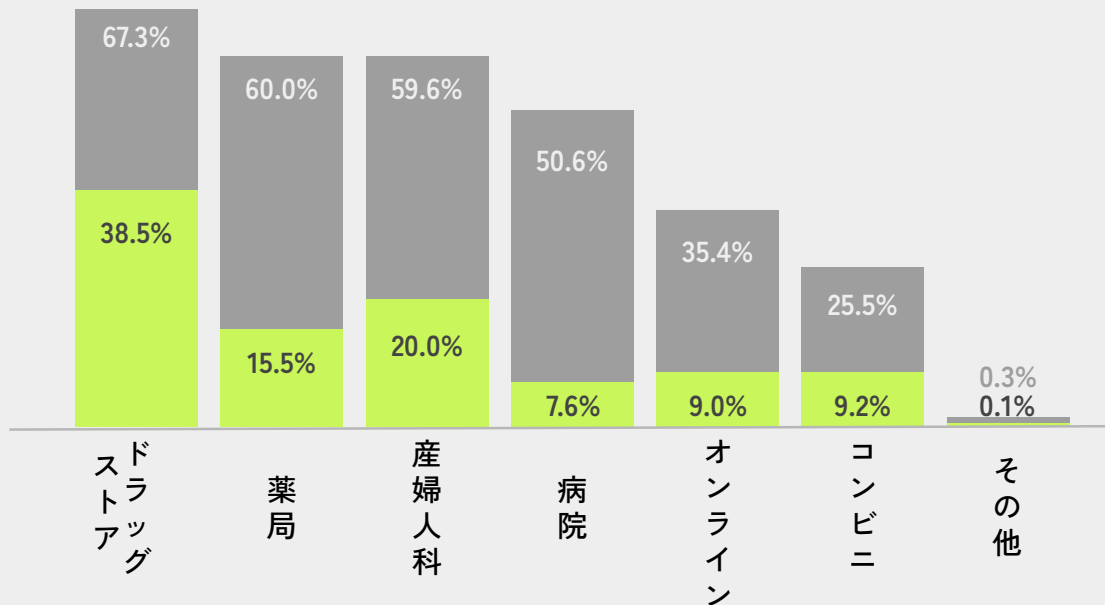


緊急避妊薬が購入できると望ましい場所

「ドラッグストア」が67%でトップ。「薬局」や「産婦人科」が60%、「病院」が51%で上位。いずれも薬剤師や産婦人科医といった専門家が常駐している場所が上位に上がっている傾向。その中でも「ドラッグストア」がトップになっていることから、より行きやすく、行き慣れている場所で購入できることが望まれる。コンビニやオンラインの回答は低かったものの、現状の社会的なイメージ等が影響していると考えられるため、将来的にコンビニ等でよりアクセスしやすくするニーズが高まる可能性はあると考えられる。

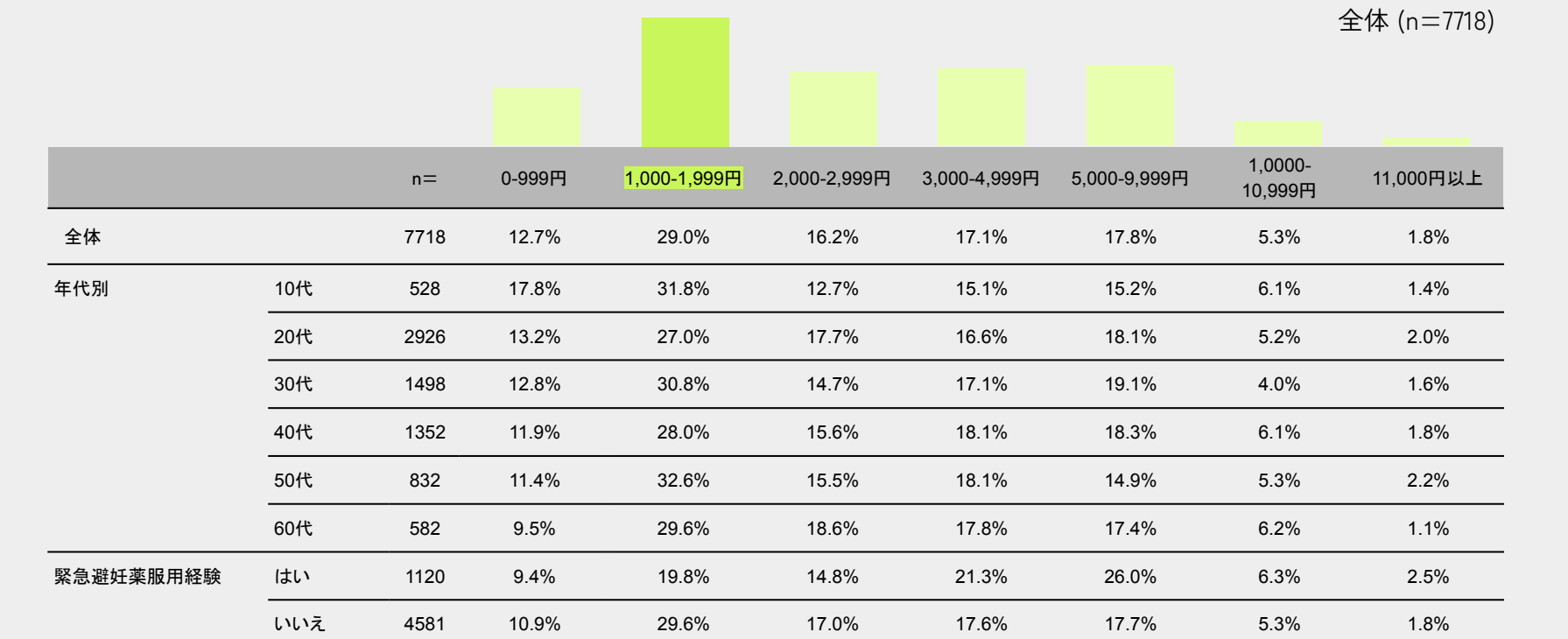
「最も当てはまる」 (7718)

「当てはまるものすべて」 (7718)



緊急避妊薬の適正価格

全年齢で3,000円以下が57.9%、5,000円以下が75%と、薬局での試験販売での8,000円よりも低い価格となった。
また平均値は3,000円であり、この金額は諸外国での販売金額に漸近しているため、3,000円が適正価格なのではないかと考えられる。



緊急避妊薬の服用障壁

緊急避妊薬の服用障壁について、「とても当てはまる」「当てはまる」を選択した回答者の割合を集計すると、「緊急避妊薬に関する情報が足りない」が一番高く73%となった。また、10代・20代では「緊急避妊薬が高い」を選択した回答者が65%を超えるなど、若者にとっては金銭的な負担が大きいことが見えた。

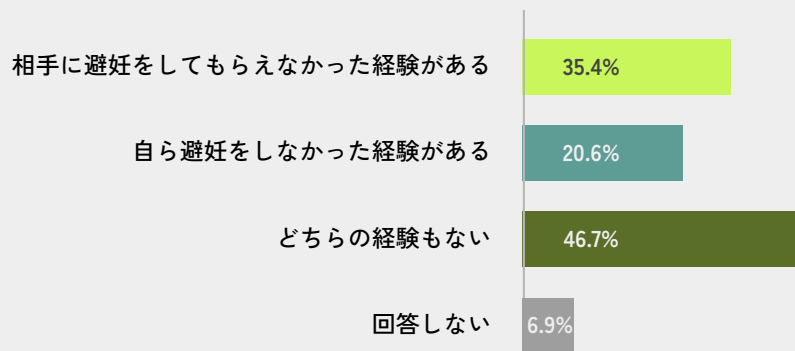
全体 (n=7718)

		n=	緊急避妊薬が高い	心理的に抵抗がある	購入できる病院や 薬局が遠い	どこで購入できるのか わからない	緊急避妊薬に関する 情報が足りない
全体		7718	53.30%	45.50%	52.90%	63.90%	73.90%
年代別	10代	528	66.10%	50.90%	58.40%	69.90%	77.10%
	20代	2926	65.00%	54.50%	59.00%	61.10%	73.10%
	30代	1498	49.50%	43.30%	51.90%	63.10%	71.80%
	40代	1352	39.90%	37.40%	45.10%	65.50%	74.60%
	50代	832	30.90%	30.30%	40.00%	60.70%	70.80%
	60代	582	24.40%	24.60%	30.90%	52.20%	63.70%
緊急避妊薬服用経験	はい	1120	76.10%	59.70%	62.60%	38.90%	62.00%
	いいえ	4581	47.00%	42.10%	50.30%	67.40%	75.50%

避妊をしてもらえなかった・しなかった経験の有無

避妊をしてもらえなかった経験は35.4%、自ら避妊をしなかった経験がある人は20.6%と合わせて50%を超える結果となった。

避妊をしてもらえなかった・しなかった経験があるか

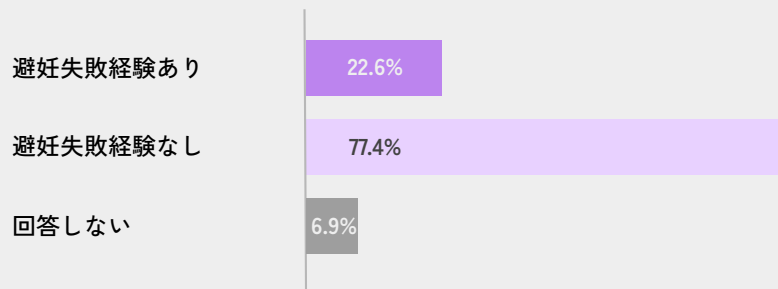


避妊に失敗した年齢

避妊に失敗した経験がある人は22.6%と、少ない数字であった。

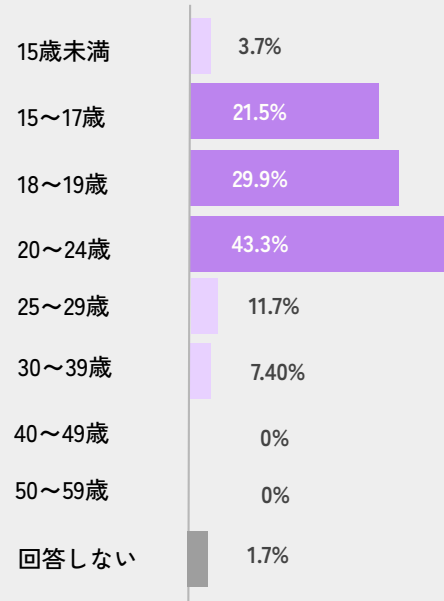
また、避妊に失敗した当時の年齢は25歳未満が多く、若者ほど避妊の失敗が身近であることがうかがえる。

避妊に失敗した経験があるか



避妊に失敗した当時の年代

全体 (849)

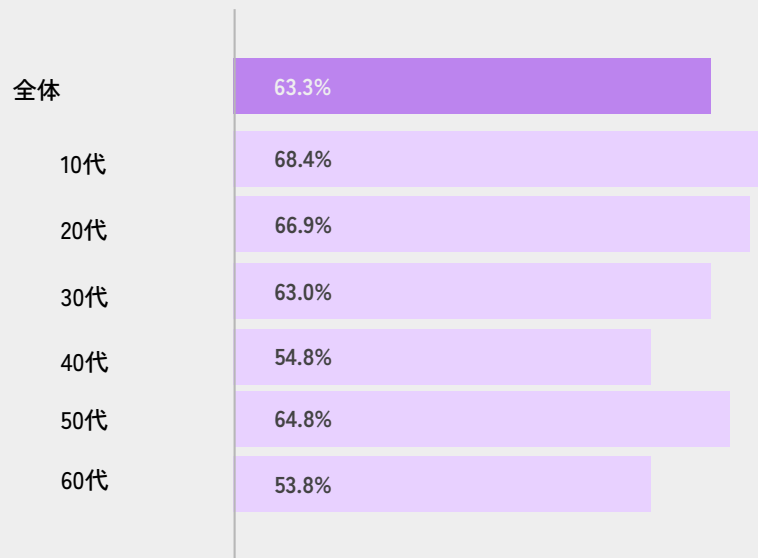


妊娠不安について

妊娠不安を感じたことのある人は性行為の経験がある人のうち6割以上と多かった。

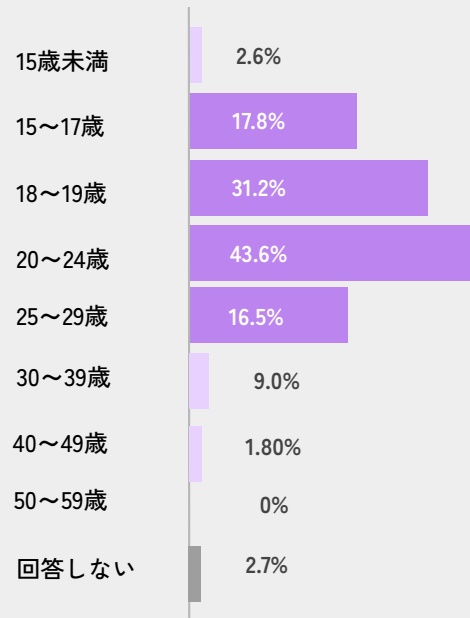
また、妊娠不安を感じた当時の年齢では20代が43.6%と最も多く、若者にとって妊娠不安が身近であることがうかがえる。

妊娠不安を感じたことがある人の割合（回答時の年齢）



妊娠不安を感じた当時の年代

全体（849）



提言

本調査を踏まえて、弊団体としては以下の4点を提言する。また、若者にとって予期せぬ妊娠や妊娠不安が身近なことから、緊急避妊薬のOTC化後の制度設計に当たり、当事者である若者の声を取り入れることを合わせて要望する。

若者にとって予期せぬ妊娠は身近である

60%の人が10代・20代までに妊娠不安を抱えたことがあり、また避妊に失敗した経験も25歳以下が非常に多かったことから、若者にとって予期せぬ妊娠が身近なものであることがわかる。

緊急避妊薬の認知

10代から30代の緊急避妊薬の認知率は7割を超えていたが、緊急避妊薬の服用障壁として一番多かったのは「情報が足りない」であった。誰もが必要になる可能性のある薬と考えると、さらに緊急避妊薬の認知を上げていく必要性があると考えている。

OTC化後の適正価格

現在の病院での処方価格は15,000円、薬局での試験販売でも8,000円である。今回の調査では、薬局販売での販売価格は3,000円程度という結果が出た。OTC化後にはこれまでより価格を下げるべきだといえるのではないだろうか。

若者への無償化

10代や20代前半の若者にとっては予期せぬ妊娠や妊娠不安が身近であるため、さらにアクセスがよくなる形を提言したい。薬局販売での適正価格とは別に、病院やクリニック等の機関で緊急避妊薬を無償提供し、必要な支援に繋げることができないのではないか。